

「ヒトとマチの動かし方」共創 実証事業プロジェクト

- 住む 癒す 学ぶ
動く 楽しむ その他

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

課題のイメージ：自治体間（浜通り地域全体）の交通が連携できていないというヒトの交通課題とそれに紐づくマチの生活課題。
 自治体間（浜通り地域全体）の交通課題とは、自治体間の交通の分断、いわゆる交通空白地帯である。葛尾村を例にとると、村内を運行する交通支援バス、村外まで運行する路線バスがある。交通支援バスは自宅から村中心の診療所訪問などに利用できる。さらに路線バスに乗り換えると船引（中通り）に出て行くことができる。一方、浜通り方面への交通はない。このような交通空白地帯は、地域全体で生じている。また交通課題の解決を目指す上では、実態人口の把握が困難であることや震災後の人口の戻りが少ないこと等に起因する地域コミュニティの衰退等、生活課題とも紐づけて考える必要がある。これらの課題解決のため、まずは既存交通のビジネス的な運用問題の解決や交通弱者などを中心とした住民（ヒト）の交通利便性の向上を目指す。

②提案の概要

自治体内の既存交通アセット（資産）を活用した
 浜通り地域全体のヒトの交通課題解決からマチ全体のデザインを

STEP1
自治体の交通・生活実態を把握

交通課題の解決には、現在の交通網の把握と住民（ヒト）のコミュニティなど生活実態（マチ）の把握が必要不可欠である。そのため、まずは自治体内ごとで住民を巻き込んだワークショップや公共交通事業者様などとの公共交通会議を実施する想定。

STEP2
地域交通のデザインと生活のデザインの両立

交通課題や公共交通（既存交通アセット）に応じてソリューションをカスタマイズ（※1）、導入し地域交通をデザイン。その際、住民（ヒト）の住む/癒す/学ぶ/楽しむなどの生活導線も加味した交通による生活（マチ）のデザインを行う想定。

STEP3
浜通り地域創生MaaS×脱炭素

将来的には、各エリアの交通情報を共通のシステムで管理することによって、浜通り地域全体の乗り換え情報の提供などにより移動をスムーズにし、浜通り地域全体の交通利便性の向上に繋げる。また、地域交通のEV活用による脱炭素化なども目指す。

地域交通に応じた解決システムのカスタマイズ



(※1)
 弊社 地域の交通課題に応じてカスタマイズ可能な
 地域交通課題ソリューション

③事業実施に対し必要な要件

自治体内の交通・生活実態の把握にあたり、既存の公共交通事業者様、住民の皆様との意見交換が必要不可欠と考えております。その際の参加の呼びかけ等はお力添えいただけますと幸いです。また、実証には、既存公共交通事業者様との連携が必要不可欠です。

④想定スケジュール

- 令和5年度中：自治体の交通・生活実態を把握（STEP1）
- 令和6年度～：地域交通のデザインの実施へ（STEP1～2）
- 令和6年3月：中間成果を実施

⑤地元企業等とのマッチング希望

- あり なし

会社名：株式会社 博報堂